

記述統計-連続変数

くっつく	
平均	-1.035
標準偏差	1.339
標準誤差	.094
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

記述統計-連続変数

離れる	
平均	1.060
標準偏差	1.413
標準誤差	.100
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

t検定 (対応あり)
仮説平均値の差= 0

平均差	自由度	t値	p値
-2.095	200	-13.689	<.0001

くっつく, 離れる

2群の符号検定 (対応あり) : くっつく, 離れる

差 > 0 の数	18
差 < 0 の数	165
差 = 0 の数	18
p値	<.0001

1標本符号検定 : くっつく

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	29
観測値数 < 仮説値数	155
観測値数 = 仮説値数	17
p値	<.0001

1標本符号検定 : 離れる

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	149
観測値数 < 仮説値数	24
観測値数 = 仮説値数	28
p値	<.0001

記述統計-連続変数

つながる	
平均	-.940
標準偏差	1.522
標準誤差	.107
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

記述統計-連続変数

切れる	
平均	1.781
標準偏差	1.550
標準誤差	.109
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

t検定 (対応あり)
仮説平均値の差= 0

平均差	自由度	t値	p値
-2.721	200	-16.243	<.0001

つながる, 切れる

2群の符号検定 (対応あり) : つながる, 切れる

差 > 0 の数	15
差 < 0 の数	161
差 = 0 の数	25
p値	<.0001

1標本符号検定 : つながる

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	28
観測値数 < 仮説値数	125
観測値数 = 仮説値数	48
p値	<.0001

1標本符号検定 : 切れる

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	164
観測値数 < 仮説値数	19
観測値数 = 仮説値数	18
p値	<.0001

記述統計-連続変数

粘着する	
平均	-1.692
標準偏差	1.798
標準誤差	.127
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

記述統計-連続変数

はがれる	
平均	.856
標準偏差	1.146
標準誤差	.081
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

t検定 (対応あり)
仮説平均値の差= 0

平均差	自由度	t値	p値
-2.547	200	-17.083	<.0001

粘着する, はがれる

2群の符号検定 (対応あり) : 粘着する, はがれる

差 > 0 の数	16
差 < 0 の数	162
差 = 0 の数	23
p値	<.0001

1標本符号検定 : 粘着する

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	28
観測値数 < 仮説値数	155
観測値数 = 仮説値数	18
p値	<.0001

1標本符号検定 : はがれる

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	134
観測値数 < 仮説値数	21
観測値数 = 仮説値数	46
p値	<.0001

記述統計-連続変数

まとわりつく	
平均	-1.448
標準偏差	1.705
標準誤差	.120
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

記述統計-連続変数

別れる	
平均	1.050
標準偏差	1.522
標準誤差	.107
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

t検定 (対応あり)
仮説平均値の差= 0

平均差	自由度	t値	p値
-2.498	200	-15.110	<.0001

まとわりつく, 別れる

2群の符号検定 (対応あり) : まとわりつく, 別れる

差 > 0 の数	18
差 < 0 の数	154
差 = 0 の数	29
p値	<.0001

1標本符号検定 : まとわりつく

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	28
観測値数 < 仮説値数	158
観測値数 = 仮説値数	15
p値	<.0001

1標本符号検定 : 別れる

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	140
観測値数 < 仮説値数	25
観測値数 = 仮説値数	36
p値	<.0001

記述統計-連続変数

集まる	
平均	-.308
標準偏差	1.247
標準誤差	.088
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

記述統計-連続変数

散る	
平均	1.095
標準偏差	1.271
標準誤差	.090
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

t検定 (対応あり)
仮説平均値の差= 0

平均差	自由度	t値	p値
-1.403	200	-10.930	<.0001

集まる, 散る

2群の符号検定 (対応あり) : 集まる, 散る

差 > 0 の数	13
差 < 0 の数	148
差 = 0 の数	40
p値	<.0001

1標本符号検定 : 集まる

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	34
観測値数 < 仮説値数	79
観測値数 = 仮説値数	88
p値	<.0001

1標本符号検定 : 散る

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	149
観測値数 < 仮説値数	13
観測値数 = 仮説値数	39
p値	<.0001

記述統計-連続変数

一体化する	
平均	-1.055
標準偏差	1.638
標準誤差	.116
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

記述統計-連続変数

バラバラになる	
平均	1.423
標準偏差	1.395
標準誤差	.098
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

t検定 (対応あり)
仮説平均値の差= 0

平均差	自由度	t値	p値
-2.478	200	-14.198	<.0001

一体化する, バラバラになる

2群の符号検定 (対応あり) : 一体化する, バラバラになる

差 > 0 の数	14
差 < 0 の数	153
差 = 0 の数	34
p値	<.0001

1標本符号検定 : 一体化する

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	27
観測値数 < 仮説値数	126
観測値数 = 仮説値数	48
p値	<.0001

1標本符号検定 : バラバラになる

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	156
観測値数 < 仮説値数	14
観測値数 = 仮説値数	31
p値	<.0001

記述統計-連続変数

同じになる	
平均	-.423
標準偏差	1.351
標準誤差	.095
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

記述統計-連続変数

違う	
平均	.478
標準偏差	1.213
標準誤差	.086
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

t検定 (対応あり)
仮説平均値の差= 0

平均差	自由度	t値	p値
-.900	200	-7.049	<.0001

同じになる, 違う

2群の符号検定 (対応あり) : 同じになる, 違う

差 > 0 の数	25
差 < 0 の数	116
差 = 0 の数	60
p値	<.0001

1標本符号検定 : 同じになる

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	25
観測値数 < 仮説値数	84
観測値数 = 仮説値数	92
p値	<.0001

1標本符号検定 : 違う

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	92
観測値数 < 仮説値数	22
観測値数 = 仮説値数	87
p値	<.0001

記述統計-連続変数

ゆっくりである	
平均	-.373
標準偏差	1.046
標準誤差	.074
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

記述統計-連続変数

速い	
平均	.672
標準偏差	1.258
標準誤差	.089
例数	201
最小値	-3.000
最大値	3.000
欠測値の数	0

t検定 (対応あり)
仮説平均値の差= 0

平均差	自由度	t値	p値
-1.045	200	-10.095	<.0001

ゆっくりである, 速い

2群の符号検定 (対応あり) : ゆっくりである, 速い

差 > 0 の数	9
差 < 0 の数	109
差 = 0 の数	83
p値	<.0001

1標本符号検定 : ゆっくりである

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	17
観測値数 < 仮説値数	74
観測値数 = 仮説値数	110
p値	<.0001

1標本符号検定 : 速い

仮説値 : 0	
観測値数 > 仮説値数	96
観測値数 < 仮説値数	13
観測値数 = 仮説値数	92
p値	<.0001